

令和元年度第2回富津市地域公共交通会議 議事録（要旨）

1 会議の名称	令和元年度第2回富津市地域公共交通会議
2 開催日時	令和2年1月29日（水） 午後15時10分～午後16時35分
3 開催場所	富津市役所502・503会議室
4 議題事項	・地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に係る事業）について
5 出席者名	富津市地域公共交通会議委員（14名） 富津市副市長 小泉 義行 日東交通(株)運輸部輸送課長 高橋 晴樹（代理出席） 一般社団法人千葉県タクシー協会理事兼南房支部長 京成タクシー かずさ(株)代表取締役会長 奥瀬 亮彦 東日本旅客鉄道(株)千葉支社君津駅長 佐藤 力 東京湾フェリー(株)常務取締役 寺元 敏光 富津地区区長会長 斉藤 正 大佐和地区区長会長 平野 昭一 天羽地区区長会長 斎藤 啓一 日東交通労働組合 富津支部長 藤寄 晋作 一般社団法人千葉県バス協会専務理事 成田 斉 千葉県富津警察署交通課長 西川 純一 千葉県総合企画部交通計画課主事 米本 茉莉恵（代理出席） 君津市企画政策部次長 鈴木 広夫 日本大学理工学部交通システム工学科 教授 藤井 敬宏 事務局（8名） 富津市長 高橋 恭市、総務部長 白石 久雄、 総務部参与 前田 雅章、総務部次長 秋嶋 隼人 企画課長 坂本 秀則、企画課長補佐 樋口 峰昭 副主査 網代 和貴、主事 園田 慎太郎
6 公開又は 非公開の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 公開の理由	富津市情報公開条例第23条第1項に該当
8 傍聴人数	2人（定員10人）
9 所管課	総務部企画課公共交通係 電話 0439-80-1229
10 議事録 （議事の要旨）	別紙のとおり

第2回「富津市地域公共交通会議」議事録

発言者	発言内容
<p>小泉会長</p> <p>事務局</p>	<p>1 開会</p> <p>ただ今から令和元年度第2回富津市地域公共交通会議を開始いたします。</p> <p>本日の会議は、議題、地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に係る事業)についてご説明し、協議後、採択を行いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>また、報告事項は、鴨川日東バス金谷線の廃止申出に係る対応について他5件となります。</p> <p>最初に、本日の出席状況の報告等事務局からお願いします。</p> <p>本日の出席状況を報告します。</p> <p>出席者14名、欠席者2名です。</p> <p>従いまして、富津市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項の規定により、半数以上のご出席をいただいておりますので、会議が成立していることを報告いたします。</p> <p>なお、本日、議題の説明員として「NPO法人 わだち」千倉理事長が出席されています。続きまして、会議の公開について説明致します。</p> <p>富津市情報公開条例第23条第1項の規定により、本会議では傍聴者の受入れ及び会議の議事結果を公表いたします。</p> <p>また、会議録作成のため録音機を使用させていただきますので、ご了承願います。以上です。</p>
<p>小泉会長</p>	<p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>高橋市長より、ご挨拶をお願いします。</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>・・・市長挨拶・・・</p>
<p>小泉会長</p>	<p>続きまして、千葉県交通計画課 池田 絵里子様任期満了に伴い、後任として、千葉県交通計画課 企画調整班長 川俣 好彦様にご就任いただいております。</p> <p>なお、本日は交通計画課 米本 茉理恵様が代理出席しております。</p> <p>また、日東交通株式会社 運輸部長 加藤委員の代理として、日東交通株式会社 輸送課長 高橋 晴樹様が出席しております。</p> <p>次に、会議録署名委員を指名させていただきます。</p> <p>佐藤委員と寺元委員にお願いいたします。</p>
<p>小泉会長</p>	<p>3 議題</p> <p>地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に係る事業)について</p> <p>それでは、次第の3、議題に入ります。</p> <p>「NPO法人 わだち」千倉理事長は席の移動をお願いします。</p>

<p>小泉会長</p>	<p>〈 説明員席に移動 〉</p> <p>最初に議題について、事務局から説明願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>議題、地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に係る事業）についてご説明いたします。</p> <p>本件は、前回の会議においてご承認をいただき、関東運輸局に提出いたしました「富津市地域公共交通確保維持改善計画」の事業評価を行うものです。</p> <p>委員の皆さまには、事務局作成の評価案を富津市地域公共交通会議の評価とすることとしてよろしいか、ご確認をお願いします。</p> <p>資料の上から3枚が関東運輸局への提出書類になります。</p> <p>4枚目をご覧ください。4枚目以降はNPO法人わだちが実施しています竹岡地区公共交通空白地有償運送事業の現状と課題をまとめた資料となります。先に現状と課題から説明いたします。</p> <p>1枚めくっていただき利用者数ですが、令和元年9月末までの6か月間で169人が利用し1運行あたりの輸送人員としては0.7人です。1往復あたり0.7人ということになります。</p> <p>2ページの利用動向では、月曜、火曜、金曜を比較しますと、金曜日の利用が71人と一番多く、午前午後を比較しますと午前便が133人、78.7%と高い比率を占めています。また、往復利用率は72.4%であり、帰りの時間が合わないなど他の手段で帰宅した方も一定数いたと思われる。</p> <p>3ページをご覧ください。利用者の分布を示したもので、右側に記載しました会員1～23は、23人の利用があり、延べ利用回数を示しています。地図中の赤字括弧書き記載の通り「世帯数多く、利用経験者もいるが、利用回数が少ない」や「世帯数の割には利用者が少ない」「世帯は少ないが頻りに利用する人がいる」など利用者の見える化を行ったものであります。</p> <p>4ページをご覧ください。地域公共交通確保維持改善事業費補助金の申請では、1運行あたり2人の認定基準を満たすため、目標人数を500人としましたが、実際の利用者数は169人、目標人数に対する達成率は33.8%と大きな乖離となりました。なお、仮に補助対象となった場合は80万円程度の補助が見込めたと思われれます。</p> <p>5ページをご覧ください。半年間の収入合計は128,500円、支出合計は1,798,831円、収支はマイナス1,670,331円、収支率は7.14%でした。市の補助金としては、補助対象経費の総額から国等補助額、輸送収入及び運送外収入を控除した額、または、補助対象経費総額の9割のいずれか少ない額で、今年度は上限の300万円が補助として見込まれます。</p> <p>6ページをご覧ください。課題と検討状況です。</p> <p>後程、現在の取り組み状況などについて、千倉代表から説明がございしますが、事業者が感じている課題として、</p> <p>地域の高齢者が不必要な外出をしない傾向がある。</p> <p>目的地へ直接行けないことに不満を感じているのではないかと。</p>

運賃が高いのではないか。
市が感じている課題として、
地域住民のニーズと合っているのか。
利用者数に見合った運行本数になっているのか。
潜在的な移動困難者への周知が十分に図られているのか。などがあげられます。

このようなことから、現状の地域住民の意向を把握するため、NPO 法人わだちにおいて竹岡地区の全世帯へアンケート調査を実施しています。

まずは、4月から9月までの半年間の現状と課題について説明させていただきました。

1枚目にお戻りください。1ページ目は上から地域公共交通等の現状、網形成計画の目指す概要、地域公共交通に関する施策・取組の概要、交通施策として実施した事業の全体像の概要、そして、補助対象事業の概要などを記載しています。

裏面をご覧ください。
定量的な目標、効果として、
指標①：利用者数の目標値は、500人
指標②：地域と連携した地域特性等に即した移動手段の確保数の目標値、1件以上

当該資料・目標値を設定した理由は、地域公共交通確保維持改善事業国庫補助対象となる1運行当たり2人以上の要件を満たすための利用者数として設定しました。

効果としては、これまで公共交通空白地であった地区に生活交通としての移動手段が確保され、一定数が利用していることであります。

次に目標・効果の達成状況として、
指標①の目標値に対して実績は169人、目標を達成できなかった要因は、住民の移動ニーズと運行とのミスマッチ及び制度の周知不足が考えられます。

指標② 目標値1件以上に対して、実績1件
目標を達成できた要因は、当該地域住民を主体としたワークショップを開催するなど移動手段導入の機運が醸成され、また、運行を担うNPO法人が地域に存在したことであると考えます。

効果として、
指標①利用者数としては、目標値に達することが出来なかったものの、指標②としては、目標を達成しており、地域公共交通網形成計画全体の目標達成に寄与していると考えます。

今後の改善点としては、
指標①利用者数の目標値500人に対し、実績169人と達成状況としては、約3割と厳しい結果となりました。

住民の移動ニーズと運行とのミスマッチ、及び制度の周知不足が考えられることから、当該地域住民に向けアンケート調査を実施し、利用者の移動ニーズを把握し、ニーズに見合った改善策実施に向けた検討を行う必要があると考えます。

	<p>2枚目は、富津市全体の公共交通を明示する必要があることから、公共交通マップを掲載しています。裏面は、運行系統図及び実績データになります。</p> <p>3枚目をご覧ください。</p> <p>A4サイズの1枚、こちらが事業評価に関する規定の様式です。</p> <p>委員の皆さまには、事務局作成の評価案を、富津市地域公共交通会議の評価とすることとしてよろしいか、ご確認をお願いします。</p> <p>① 補助対象事業者名、NPO 法人わだち</p> <p>② 事業概要、竹岡地区 公共交通空白地有償運送</p> <p>③ 前回の事業評価の反映状況、初回のため記載はありません。</p> <p>④ 事業実施の適切性ですが、アルファベットのA、これは、定時定路線型の運行として計画通り運行されたため、事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されたと判断しました。</p> <p>⑤ 目標・効果達成状況ですが、アルファベットのC、事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかったことによる評価です。</p> <p>⑥ 事業の今後の改善点ですが、地域住民の移動ニーズをアンケート調査により検証し、見直しが必要です。</p> <p>ご説明いたしましたとおり、国の補助要件には達することはできませんでしたが、事業主体 NPO 法人わだちに対して、市は、補助金の支出を行うとともに、意見交換や協議の場への出席、また、利用状況に基づいたデータ分析や改善に向けての提案など、引き続き支援してまいります。</p> <p>以上で事務局の説明を終わります。</p>
小泉会長	<p>続きまして、千倉理事長から現状の取り組みなどについて、説明をお願いします。</p>
NPO 法人わだち	<p>ただいま事務局から説明をしていただいたところですが、残念ながら国庫補助基準に達することが出来ず、力不足を感じています。</p> <p>しかしながら、ぷちバスの存在が地域に根付いてきているという実感はあります。今後の改善に向けて、住民向けのアンケートをただいま実施しているところです。</p> <p>まだ回収が終わっていませんので結果は述べられませんが、特別にご意見を書いてくださった方がいますので、読み上げて紹介させていただきます。</p> <p>「コメリまで路線を延長していただけないか。」</p> <p>「知り合いで環の方でも不便を感じているという声も聞く。」</p> <p>「路線バスは昼間の時間に便数が少なく、帰りに困っている。」</p> <p>「運行時刻、便数が改善されれば、便利になり利用が増える。」</p> <p>「上総湊の高速バス乗り場へも寄って欲しい。」</p> <p>「運転手は安全運転で感謝している。」</p> <p>「予約してタクシーのようになれば利用するかも知れません。」</p> <p>「運賃を半額か、それ以下にしていきたい。」</p> <p>「年会費を1,000円ではなく、5,000円か10,000円にしたらどうか。」</p>

	<p>「医院やクリニックに通院している人の実態調査をしたらどうか。」 「今は自由な行動ができていますが、今後は利用するかも知れない。」 「今は運転しているが、10年、20年先にも存在していて欲しい。」 「吉田屋往復1,000円で、個人的に請け負っている人もいる。」 「夕方や遅い時間にも遠くに買い物に行けるようになったらいい。」 「利用したい頃には、歩行できないかもしれない。」 「難しいかも知れないが、子どもも利用できるようにして欲しい。」 「自分は利用していないが、白狐まで来るのはありがたい。」 「10年後は利用したいと思っている。そこまで続けて欲しい。」といった意見がありました。</p> <p>今の不安と将来に対するバスへの期待を感じますが、今はこういった状態ですので、改善しなければと感じています。</p> <p>昨日、国土交通省の研究官の方が事務所へお見えになりました。内容は、自家用有償運送事業のアンケート調査に関するもので、現在対応しているところです。富津浅間山バスストップも視察され、色々と意見交換やご助言をいただき、帰られました。「自家用有償運送が地域に定着するまでには時間がかかるものですから。」と、お言葉をいただきました。</p> <p>現状で特に改善が必要と感じているのは料金です。1乗車500円について、「高い。」という意見が多いのも事実です。前回、乗継券を作りましたが、あまり利用されなかったということもありますので、1日周遊できるような券を作成したらどうかと考えております。</p> <p>また、ルート改善としては、コメリさんへの要望が多くあります。農家や園芸をされる方には需要がありますので、以前、浅間山から更利を通る周回コースも検討しておりましたが、このような改善も考えています。ぜひ、この場で委員の皆さんに提案させていただいて、お考えを伺いたいと考えています。</p> <p>もうひとつ、国土交通省の研究官の方からは、「定時定路線ではない、同地域でデマンド方式といった考えもありますよ。」と、アドバイスをいただきました。行きたいところへ直接行きたいという要望は確かに多く、対象者を同じ場所であれば一緒にお連れできる方法も探していきたいと考えています。以上です。</p> <p>事務局及び千倉理事長の説明について、ご質疑・ご意見がございましたら、お願い致します。</p> <p>この資料を見ますと、収支はマイナスとなっているものの、一定の利用者がいるということですが、天羽地域の他の地域、例えば天神山や環へ路線を増やすことが出来ないのでしょうか。また、それを地域が望んでいるのかどうか。市の方もどう考えを持っているか。お聞きしたい。</p> <p>市としては、これまで竹岡地区での会議や意見交換の場に参加させていただきました。アンケート調査を実施し、今後改善できるところは改善していきたいと考えています。他の地域でも需要があるかどうかということもあるかと思います。地域としては天羽地域ということで認定を</p>
小泉会長	
斎藤（啓）委員	
事務局	

<p>NPO 法人わだち</p>	<p>受けていますので、運転手やタイヤの問題等、併せて一緒にご相談させていただきますと思います。</p> <p>単刀直入に、「やりたいか、やりたくないか。」と言われたら、やりたいです。天羽地域の移動に困っている方を直に見てきていますので、ぜひ手を差し伸べたいという考えはありますが、やみくもに広げることはいできないと考えています。</p> <p>まして、自家用有償運送という制度自体が、元々採算が合わなくて事業者が撤退した地域で始めたものですので、採算が取れる事業ではないということをつかっていた上で始めています。行政の協力を得てやっていくべきものと思っています。それを市民が協力して、税負担を少しでも埋めていける方法をどう見つけていくか。まずは自分が熟知している地域である竹岡で始めました。竹岡地区が成功せずして手を広げることはいできないと考えています。最初に申し上げたとおり、やりたいとは思っています。以上です。</p>
<p>小泉会長</p>	<p>他にご質疑・ご意見はございませんか。</p>
<p>斉藤（正）委員</p>	<p>登録者が44となっていて、利用者が23名となっているということは、残りの20名ほどは1度も利用されていないということですか。</p>
<p>NPO 法人わだち</p>	<p>当初一人一会員として会費をいただいていたのですが、途中から一世帯一會費とし、会費をいただいた世帯は全員が会員ということで、乗車いただけるように変更しましたので、会員としては、44世帯となっていて、延べ利用人数は169名ということになります。</p>
<p>藤井委員</p>	<p>交通空白地域の有償運送については、色々な地域において、どういうアプローチをしたらうまく対応できるかということを検討しているところで、福祉有償運送事業を行っている事業者がこれを担えるかは、千葉県内他市でも注目して見ているところです。</p> <p>タクシーがエリアとして入れないところを市民でサポートするということはとても大事なことです。これを公共交通としてどう位置付けるかという悩みが出てくる。</p> <p>数字だけでみると収支率7.1%という、基本的には、公共交通としては成り立ちません。</p> <p>八千代市のコミュニティバスの例をみますと、6路線を導入したところ、5路線が12.5%ということで、そこは全部廃止してしまって、1路線だけ35%という路線に限って、集中改善を行い、現在は60%位まで収支改善した例があります。</p> <p>国庫補助を受けるにあたって、1運行2人というのは、公共交通として位置付ける一つの基準としてあります。一定の利用があるから国が支援をするというものです。</p> <p>この基準を満たしていなくても、本当にこれが必要な公共交通としての移動手段である、と市が位置付けをしたのであれば、考え方として、</p>

市がいくら公費を投じて、財源があれば構わないとは思いますが。ただし、それを適切な運用として成し得るか、という判断はあります。

以前、会議に出席した際に、「タクシーのような交通の専門事業者ではない事業者がこういった運営をするにあたっては、事務局がサポートしなければならない。」ということは申し上げましたが、どこまで見ていくかということのを常に考えなければならない。

基本的には3人の方、特定利用という現状を公共交通として、どう考えるのか。先ほどの説明の中であった、「将来は使いたい」という声は、実質的には今の需要には乗って来ないので、そういう声は一旦置いて考える必要がある。

「今、何かの方策を変えることによって、利用してくれるようになる人が現実にどれだけいるのだろうか。」といった視点での数字の見直しをしなければ、改善には至りません。

月に1回、おそらく通院で利用しているという方も見受けられるが、そうすると、かなり限られた方の利用ということになる。

そういったときに、一方で、富津市では運転免許証を保有していない高齢者の方へのタクシー補助もやっている。2月からのタクシー運賃改定もあり、配車と迎車料金の関係で難しいかも知れませんが、そちらの方を活用する方が総事業費としては安くなる。それを税負担して運用するものが公平にきちんと運用できているかという評価を事務局はちゃんとやらないといけない。

「動かしたい」という思いはあったとしても、富津市民の税で成り立っているものに対して、公平性を担保した運用にするには、事務局としては、目標レベルを示さなければならない。「どの時点まで」という目標を決めて、かつ、特定の人に運行できる仕組みとして、変えられるのであれば、その運行補助へ切り替えていくということの両面を含めて考えていかないといけない。

運賃に関しては、「安く。」というのは、皆そう言うのは当然のことなので、そこは議論にはなりません。

距離に応じて、どれ位の費用がかかるかということを利用者が理解して、運賃として応えるものになっているのか、示さなければならない。

以前、千葉中央バスが撤退してしまったことで導入された市原市の志津デマンドタクシーの例を見ますと、エリアが広いので、エリア料金制で、500円から1,500円の料金がかかりますが、1,500円払って利用する人がいる。対価に見合う利益を利用者が感じ取れば支払います。

この地域のように、自分達の移動に対し、もともと移動困難地域であるということのを前提として、どれだけの移動にどれだけの費用がかかるのかを知った上での料金設定を地域と一緒に考え続けられない限り、「ワンコインがいい。」という声ばかりになってしまいます。

志津デマンドタクシーを導入する際の調査では、地域の方達に「本当に必要か。」と調査したところ、「今すぐ使いたい。」という200人の方が手を挙げた。その後、その方々に1か月間毎日どういう外出をして、どういう手段で行ったか、日めくりカレンダーに記録してもらおうという非常に手間のかかる作業をやったところ、結果的に運行するまでで、真に

<p>成田委員</p>	<p>必要な人は 55 名という数字が出た。実際に動かしてみると、57 名の方が利用しています。</p> <p>この移動手段が導入されるという時の会議を欠席したので、どういう想定で動かすかという説明の空気感を自分は感じていませんが、利用したいという人数が、地域の数として担保された数字なのかというところがないと、公共交通にはなり得なくて、そうすると、移動困難者を 1 人ずつ支援する仕組みとして運用した方がやり易くなる。</p> <p>その辺のところは、実際にやってみないと分からないところもありますが、今回のアンケート調査を受けて、行政側が支援するにあたって、やはり 7.1%というのは、非常に説明しにくい数字です。これを一人でも多くの方に利用してもらえらる仕組みに切り替えないとはいけません。</p> <p>この公共交通会議は、法定協議会ですので、運賃からルートまで決められます。そういった中で、この移動手段を是非利用できる仕組みに切り替えて、別の方向性も検討出来るようにする。事務局と相談し合っ、次の改善方策をやってみるといことが、まずは大事です。</p> <p>福祉有償運送事業の担い手が、地域の足を確保しなければいけないような地域が千葉を含めて多くあるというのが現実なので、障害をお持ちの方に限定して運送する方法とそうではない健常者の移動の切り替えをどのように考えるか。事務局も考えていかないといけない。以上です。</p> <p>先ほど、事務局から説明をいただきましたが、富津市で行っている福祉有償運送事業者による新たな移動手段の導入というのは、大きなチャレンジだと思います。手探りで実施しているということで、大変敬意を表したいと思います。</p> <p>これは、富津市地域公共交通網形成計画に位置づけられた事業 10「地域と連携した地域特性等に即した移動手段の導入」に基づくものと思いますが、今回、この事業評価を拝見しまして、「厳しいな。」と思ったのが、「利用者数の目標値が 500 人に達しなかったと。500 人というのは、国の補助基準を満たすための 1 運行あたり 2 人以上という基準を満たすために設定した。」という説明ですが、一方で、「地域住民を主体としたワークショップが開催され、市民の方にご参画いただいている。」といったような部分を定量的な目標に入れることが出来なかったのでしょうか。</p> <p>何を言いたいかといいますと、「事業評価における目標効果の達成状況の C というのが、大変厳しい。」と思っ、アンケート調査を実施して、これから分析されるということで、今後に向け市民の方が中心となって検討していくといった説明があつた中で「全然だめだ。」というよりは、「そういったことに取り組んでいく。」といったコメントを入れて B に出来ないものか。</p> <p>デマンドタクシー等含めて、新しい事業というのはすぐには乗りません。一般路線バスも鉄道も開業しても、すぐには乗らないものです。</p> <p>事業をやる方がチャレンジしていくということであれば、いきなり C という評価ということではなく、もう少し温かい目で見えていただいて、B という評価を与えられないものでしょうか。</p>
-------------	---

事務局	<p>既に調整が済んで事前に国へ提出しているということでしたら、難しいかも知れませんが、「まだチャレンジ中です。アンケートをして、これから次なる戦略を見直していく。」ということをお付けいただき、ぜひ、Bという評価とする調整の可能性がないのか教えていただきたい。</p> <p>今おっしゃっていただいたように、指標として2点あげさせていただきました。指標①の500人というのは必須要件となります。指標②の記載事項は必須要件ではございませんが、公共交通網形成計画で定められた事業として、一つの地域から移動手段が一つ生まれたということで、2点目の指標を記載させていただきました。評価は、BかCか悩んだところですが、定量数値に開きがあったために、事務局としては、Cとして素案を作成し、会議に諮りました。国へお届けしたものではありませんので、この会議に諮って、お決めいただきたいと思っております。</p>
成田委員	<p>今の説明を聞きまして、やはり、1番最初の年で、チャレンジ中ですので、CよりはBだという気持ちが強くなりました。</p> <p>もう一つ情報とすると、次の通常国会で、地域公共交通活性化再生法の改正案が上程され、原則全自治体に対し、網計画策定の努力義務が法律で定められる動きがある。そんな中、富津市さんは、先んじてこういった計画を作って動き出しているのだから、これから後続してくる団体にとって、富津市がチャレンジしているこの事業はお手本になります。そういう面でいうと、やはり、いきなりCよりはBの方がいいと思っておりますということで、私の意見として、述べさせていただきました。</p>
平野委員	<p>私としても、初めから合格点が取れる事業ではありませんので、成田委員の意見に賛成です。</p>
藤井委員	<p>冒頭でもお話しましたが、福祉有償運送事業の担い手が、公共交通空白地域にチャレンジするという事例は、なかなか無いです。</p> <p>そういった意味では、手を挙げていただいた事業者がいて、地域の足としてどう盛り上げていくか考えているというのは評価すべきところがあります。</p> <p>福祉有償運送事業の人達が、地域の移動ニーズをきちんと把握している中で、利用者に届く交通手段をまず確保できた。こういったアプローチをしたことによって、実際にはプロの交通事業者でない方が住民の協力を得て、自分達の移動の足を任せたいという方々が40数件あった訳で、これは評価していいこととして付記事項として書いた中で、この移動手段を公共交通として将来伸ばしてあげる方向性で、そのためにも現状で改善できる仕組みを行政と一緒にやっているというような書きぶりの方がいいかと思っております。私も個人的には、「Cは厳しいかな。」と思っていました。ただし、数字だけでみると、Cでしかないと思っております。あとは、判断だと思っております。</p> <p>福祉有償運送事業者がこれだけ頑張ったというところは、やはり評価してあげていいかと思っております。</p>

小泉会長	他の委員さん、いかがでしょうか。
斎藤（啓）委員	皆さんから非常に温かいご意見がありました。1年目としては厳しかったと思います。もう1年間様子を見て、皆さんの意見を踏まえて評価するのがいいのではないかと思います。
NPO 法人わだち	<p>皆様に温かいお言葉をいただき、ありがとうございます。私も藤井先生に教えていただいたとおりのことを日々、感じております。</p> <p>バスを走らせたのは、今乗る人だけでなく、これから移動困難になる人達への問題提起にはなったと思いますが、そこに公費を使って、大手を振って、これが公共交通だとは言えないというふうに受けとめさせていただきました。</p> <p>また、これは、ここで申し上げることではないかも知れませんが、福祉有償運送事業のあり方も含めた会議として、行政の皆さんと一緒に考えていきたいという気持ちがあります。</p> <p>福祉有償運送事業の会議では、更新のあった事業者のみが集められて、認証をいただくような形式の会議となっています。</p> <p>公共交通会議のように、皆様がそれぞれの立場から貴重な意見やアドバイスを述べていただけるとするのは、初めての体験で、非常にありがたく、心強く思っています。</p> <p>デマンド形式ではなく、定時定路線型の方が多くの人を一度に運べると思いましたが、結果としては乗らない、期待だけという状況ですので、急に2、3年で改善できるかというところは難しいとは思いますが、公共交通会議でご提案いただきたいのが、福祉有償運送を含めた会議のようなもので、そこに補助金をかければ、外出出来ない人達や先への不安を持つ方へのニーズにも合わせられるのではないかとということが、話を聞いていて今、思い浮かびました。</p> <p>目標効果の達成状況は、Bにしていきたいという気持ちもありますが、ここはCということで、事業実施の適切性でAをもらったということを誇りにして、今日は帰りたいと思います。</p>
藤井委員	<p>今のお話との関連で、昨日、市川市さんでは、福祉有償運送事業の会議があり、3社の更新がありました。そこで、更新手続きをやった後に、「その他事項」としてやったのが、「福祉有償運送事業者と公共交通を絡めることが出来ないか、検討しましょう。」という趣旨で、国土交通省の過疎地域輸送に関するパンフレットをベースにして、空白地有償運送に関する勉強会をやっていました。全国の事例で、無償でやっているもの、有償でやっているものといった紹介があり、今後、一緒にステージで半年に一回、勉強会をやるということになりました。</p> <p>市川市の公共交通会議には関わっていますが、公共交通と福祉輸送とのバランスをどこで検討していくかというのは、難しいところですが、基本的には、福祉輸送側から、これはできそうだとことをあげてもらおうと、公共交通はやり易くなるということがあります。</p>

小泉会長	<p>富津市の福祉有償運送事業の状況は分かりませんが、他の自治体でも動きが出てきているという情報提供です。以上です。</p> <p>他にご意見ございませんか。</p> <p>今、委員さんの中から、「Cは厳しいのでBでいいのではないか。」というご意見がありました一方で、事業者からは「Cが相応しい。」という意見もございましたが、いかがでしょうか。他にご意見ございませんか。</p> <p>【意見なし】</p>
小泉会長	<p>では、事業評価の目標・効果達成状況については、成田委員から提案がありました「Bでいいのではないか。」ということによろしいでしょうか。</p> <p>【委員】 【挙手全員】</p>
小泉会長	<p>では、事務局はそれに沿って、修正をお願いします。</p>
事務局	<p>分かりました。目標・効果達成状況については、Bと修正させていただき、今後の改善点に関する事項に関しては、アンケート調査を実施中である旨を付記した形に、加筆修正させていただきます。</p>
小泉会長	<p>修正後はどうしますか。</p>
事務局	<p>事務局一任とさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
小泉会長	<p>それでは、事務局一任ということで、異議ございませんか。</p> <p>【委員】 異議なし</p>
小泉会長	<p>では、事務局は、評価については、Bに修正し、一部文言を加筆修正する対応をお願いします。</p>
事務局	<p>委員の皆様からは、厳しく、かつ、貴重なお言葉をいただきました。確かに数字上では、Cという評価かも知れませんが、チャレンジの半ばということで、期待感を込めて、Bとみなさんが判断していただいたものと受け止めます。アンケート結果を踏まえ、また、利用者の生の声も聴きたいと思います。それらも踏まえて、自分達の地域で運行しているバスであるということに持っていきたい。これをどう動かすかということが、非常に大事だと思いました。少しでも利用できる仕組みを考えていきたいと思います。</p>
小泉会長	<p>他によろしいですか。</p>

<p>小泉会長</p>	<p>ご質疑等、無いようですので、議題の「地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に係る事業)について」、決を採りたいと思います。</p> <p>地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に係る事業)について、先ほど申し上げたとおり、一部加筆修正した上で原案とすることに、賛成の方は、挙手をお願いします。</p> <p>【委員】 【挙手全員】</p> <p>議題は賛成全員により可決されました。 事務局は、所定の手続きを進めて下さい。 以上で、本日の議事は終了です。 「NPO法人 わだち」千倉理事長は、お疲れ様でした。席の移動をお願いします。</p> <p>〈 移動 〉</p>
<p>小泉会長</p>	<p>4 報告事項</p> <p>続きまして、次第の4、報告事項に入ります。 報告事項について、事務局から説明願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、報告させていただきます。報告事項は6点になります。初めに(1)～(3)について、ご説明いたします。</p> <p>まず、報告事項(1)鴨川日東バス金谷線の廃止申出に係る対応についてでございます。</p> <p>お手元の公共交通マップをご覧くださいまして、市最南部の金谷に位置しております東京湾フェリー前から JR 鴨川駅を經由し、亀田病院までの間を運行している路線ですが、昨年12月に鴨川日東バス株式会社から千葉県バス対策協議会へ令和2年10月1日をもって路線を廃止したい旨の申出がなされました。</p> <p>経緯につきましては、同路線は、以前地域間幹線として、国・県の補助を受けておりましたが、利用者の減少に伴い、2年程前に補助対象外となりましたことを受け、その当時、県バス対策協議会にて協議を行い、国・県補助相当額を、沿線市町が負担することで、3年間は運行継続し、国・県補助の復活を目指して、利用促進を図って参りましたが、補助対象となる水準に至らず、同社の業績圧迫の一因になっているということが、廃止申出に至った主な理由であります。</p> <p>市としては、「富津市のキロ程比率(10.57%)に応じた追加補助を行うことで、運行を存続出来るのであれば、存続を希望する。」という方針のもと、今後、関係市町、事業者と千葉県バス対策協議会において、路線存続に向け協議して参ります。</p> <p>次に、報告事項(2)富津浅間山バスストップの開設についてでございます。こちらは、バス事業者において作成いただきましたチラシとなっております。裏面は時刻表となっております。その間に、タイムズ</p>

	<p>カーシェア導入に係る報道発表資料、利用者数の推移、ラッピングバス広告に関する資料となっております。</p> <p>昨年10月1日に供用が開始され、東京、新宿、羽田空港・横浜、千葉へのアクセスが格段に向上し、現在までに、多くの方にご利用いただいております。併せまして、高速バスストップに隣接した無料駐車場を完備し、駐車場には、タイムズカーシェアの車両を2台設置しております。</p> <p>また、これを契機として、富津市の魅力を発信するため、日東交通株式会社所有の高速バス1台にラッピング装飾を行い、現在は白浜・館山ー東京線（房総なのはな号）を1日2往復運行しています。今後も高速バスの利用促進を図って参ります。</p> <p>次に、報告事項（3）富津市タクシー運賃助成事業の利用状況についてでございます。運転免許証を保有していない高齢者等や、運転が一時的に困難となる妊産婦を対象に、タクシー運賃の一部を助成する制度として、昨年7月から事業を開始いたしまして、12月まで半年間の利用状況をまとめたものです。登録者数は1,217名、のべ5,371名の方に利用されております。</p> <p>地区別利用者数としては、大佐和地区が半数以上の約56%を占め、富津地区が約36%、続いて天羽地区が約8%となっております。</p> <p>利用目的は、通院が約48%、買い物が約30%、その他が約22%となっております。なお、その他には利用券に記載がなかったものも含まれます。</p> <p>乗合状況としては、4,758件の運行のうち、552件の運行が相乗りとして利用され、全運行の約12%が相乗り利用されています。</p> <p>本事業については、次年度以降、対象者及び対象事業者を拡充し、さらなる利用促進を図って参ります。</p> <p>ここで一旦、説明を終わります。</p>
小泉会長	<p>事務局の説明について、ご質疑・ご意見がございましたら、お願い致します。</p>
奥瀬委員	<p>タクシー運賃助成事業の報告がありましたが、既存の公共輸送ストックであるタクシーを活用していただくことで、地域の公共交通としての位置付けを高めていただいたことは非常に有効で、ありがたく思っています。大貫地区では、以前営業をしていた岩瀬タクシーさんが廃業となり、その後に大佐和タクシーさんが参入して下さいました。タクシー事業については、厳しい経営状況だと伺っていましたが、本事業によって、地域の通院や買い物輸送に役立つような地域貢献ができ、地域にとってもタクシー事業者にとってもウィンウィンな関係を築けたと思います。</p> <p>以上、補足させていただきました。</p>
寺元委員	<p>鴨川日東バス金谷線について、昨年12月、1月と繁忙期のゴールデンウィーク前後に東京湾フェリーセット券を販売しましたところ、非常に数字が伸びまして、昨年の1月に10人だったのが、91人になりました。</p>

	<p>ところが、9月の台風以降の観光の風評被害の影響で、今年は43人しか乗っていません。風評被害はまだ続くと考えられ、公共交通にとっても大きな痛手になると思います。ここまで頑張ってきて、もう少しで復調していくのかなというところで、路線が廃止に追いやられるのは残念です。まだ模索出来る場所があれば、協力させていただきますので、ぜひ、いい形で継続していただきたいと思います。</p>
平野委員	<p>タクシー運賃助成事業に関しましては、地域住民に大変評判が良く、利用させていただいています。「呼んでも来ない。」というような声もありますので、ご報告させていただきます。</p>
藤井委員	<p>タクシー運賃助成事業については、1回の乗車で500円ということでもよろしいでしょうか。私が関わっているところで、八千代市でも1回500円、往復利用で月4枚。そういう運用をしている自治体がほとんどのようです。</p> <p>一方で、伊勢原市のタクシー助成制度では、予算をどう執行したか評価しましょうということで、タクシー券を月に1回の通院程度でしか使わない人といった、ある条件をクリアした方には、複数枚利用を認めているところもあります。運賃が2,000円かかる場所、4枚利用出来るので、実質0円で移動できるという運用をすることで、予算の執行率が80%となったという事例があります。</p> <p>逆の事例として、伊豆の国市ではタクシー助成をやっていたが、「予算確保の都合で、翌年は補助額を下げますよ。」と周知したところ、市民から大批判を受け、結局は全部やめてしまったという事例もある。</p> <p>カーシェアについては、ぜひ活用できる仕組みを検討していただきたい。近年、高速バスとカーシェアを組み合わせた動きが出てきましたが、現段階での利用率は記載がないので分かりませんが、台風被害の影響で、出だしは非常に厳しいということも聞いております。</p> <p>来訪された方への二次的な移動手段としていくためには、観光資源をうまく取り込んでいく必要があると思います。タイムズさんが導入された千葉県最南端の事例ですので、これがうまくいかないと、房総全体へは広がってこないと思います。事業者と一体で取り組めることや、政策的にフォローできる部分、関わるところはぜひお願いしたい。</p>
事務局	<p>カーシェアについては、利用者がまだまだ数字としては出てこない状況ですが、民間事業者同士の協力ということで、現在タイムズさんとマザー牧場での利用促進キャンペーンを実施しております。今後こういった取組みを他の市内観光施設へも広げる検討を行って参ります。</p>
小泉会長	<p>タクシー券に関しての説明はいかがですか。</p>
藤井委員	<p>これは難しい問題ですので、一担当として、この場ではお答えしにくいと思います。ご検討ください。</p>

小泉会長	<p>タクシー助成事業に関しては、相乗り利用も増えているということで、今後もいい方法があれば変えていければと思います。</p> <p>他にご質疑・ご意見はございませんか。</p> <p>それでは、事務局は、引き続き説明をお願いします。</p>
事務局	<p>続きまして、報告事項（４）「運転のお仕事説明面接会 in 富津」の開催結果についてでございます。</p> <p>事業 16「運転手の確保策の実施」に基づき、ハローワーク木更津、交通事業者と連携し、初開催しましたところ、10名の求職者が来場されました。ハローワークによりますと、運転の仕事に特化した就職説明面接会を地方自治体と連携して開催することは、県内では今回が初の試みということで、裏面には東京交通新聞社に取り上げていただいた記事を掲載しております。参加事業者からは、次年度以降の開催を希望する声を多くいただいておりますので、今後も市内公共交通を担う人材確保のため、富津市も共に取り組んで参ります。</p> <p>次に、報告事項（５）富津市公共交通マップ（令和２年１月１日改訂版）についてでございます。昨年３月に発行をしました公共交通マップにつきまして、令和２年１月１日現在で改訂版を５００部発行いたしました。富津浅間山バスストップの供用開始に伴い、利用できる高速バス路線が増えたほか、バス停や施設の名称変更、消費税率引き上げに伴う運賃改定といった所要の修正を行いました。市施設等にて配布するほか、市ホームページへ掲載し、公共交通の利用促進を図って参ります。</p> <p>最後に、公共交通ニュースについてでございます。これまでご説明した内容につきまして、定期的に公共交通ニュースを発行し、区長回覧や市ホームページ等を通じ、市民周知を図っております。今後も随時発行して参ります。</p> <p>事務局からの報告は以上です。</p>
小泉会長	<p>事務局の説明について、ご質疑・ご意見がございましたら、お願い致します。</p>
奥瀬委員	<p>昨年１２月に、タクシー事業者向けの「運転のお仕事説明面接会」ということで実施させていただきました。ドライバーが不足しておりまして、配車がままならないという状況が、地区によってはありますことをこの場をお借りして、お詫び申し上げます。タクシーの担い手確保について、ご支援いただく形で、取り組んでいただいたのは、県内初の試みということで、今回１０名の方にご来場いただき、採用に至った会社もあったと聞いています。しかしながら、業界全体で、人手不足の問題は好転している訳ではないので、また来年度以降も２回目、３回目とブラッシュアップして実施していければと考えています。以上です。</p>
小泉会長	<p>他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>無いようですので、「報告事項」について終了します。</p>

小泉会長	<p>5 その他 その他として、委員の皆様から、何かございますか。</p>
奥瀬委員	<p>2月1日にタクシーにつきましては、運賃改定をさせていただく当局の認可をいただきましたので、資料を配布させていただきます。 変更後は、初乗りが1.27kmで、500円。加算運賃については、100円刻みという認可をいただき、各社鋭意準備を進めています。 迎車料金については、今まではスリップ制とあって、初乗り料金として処理させていただいていましたが、2月以降は、外出しで、300円ないし400円とし、事業者にて選択する形となります。当地域においては、迎車距離が長くなりがちという理由から、400円とする事業者が大半だと聞いています。 全体的に、分かりやすい運賃に改定されましたので、ぜひタクシーをご利用いただければと思います。</p>
小泉会長	<p>奥瀬委員ありがとうございました。 ただいまの報告について、ご質問がございましたら、お願いします。</p>
小泉会長	<p>事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>ありません。</p>
小泉会長	<p>無いようですので、「その他」について終了します。円滑な議事進行にご協力をいただきありがとうございました。 以上で会議を閉会します。</p>
小泉会長	<p>6 閉会 本日はありがとうございました。</p>
事務局	<p>事務局からご連絡申し上げます。次回会議は、6月を予定しております。後日書面で、お知らせいたしますので、出席をお願いいたします。 本日は、お疲れ様でございました。</p> <p style="text-align: right;">(終了時刻 午後16時35分)</p>

以上